

令和7年産さくらんぼの作柄について

「山形県さくらんぼ作柄調査委員会」（構成：JA全農山形、農業共済組合、東北農政局、県）で協議し、令和7年産さくらんぼの作柄予想を以下のとおり決定し、5月28日（水）に公表。

1 作柄予想

○作柄：平年より「少ない」※1

○予想収穫量：9,100～10,200トン（前年比106～119%、平年比72～80%）
（前年の収穫量8,590t、平年の収穫量12,700t）

- ・「紅秀峰」「やまがた紅王」の着果は概ね良好だが、「佐藤錦」は少ない。
- ・「佐藤錦」が少ない主な要因として、開花期の天候不良（強風、降雨）で訪花昆虫の活動が鈍かった園地が多く、受粉されなかったことが考えられる。
- ・双子果の発生は、平年より多いが、前年より少ない。

※1 作柄区分（平年収穫量との比較で5段階に区分）

「多い」：115%以上 「やや多い」：105%以上 115%未満

「平年並」：95%以上 105%未満

「少ない」：85%未満 「やや少ない」：85%以上 95%未満

2 収穫盛期の予想

○「佐藤錦」：6月17日～23日頃 （平年並）

○「紅秀峰」：6月25日～7月2日頃 （平年並）

3 今後の対応

○双子果や着果量の多い園地における摘果作業、適切な着色管理、高温対策、適期収穫など、高品質生産・厳選出荷に向けた指導を徹底する。

○6月上旬～中旬に補完調査を実施し、今回の作柄予想から大きな変動が見込まれる場合は、改めて公表する。

さくらんぼ作柄調査の概要

(1) 調査日：令和7年5月23日（金）

(2) 調査園地数：48園地（「佐藤錦」40園地、「紅秀峰」8園地）

(3) 調査結果

かそくじょうたんかし
花束状短果枝当たりの着果数※2：1.3果（前年1.6果、平年：1.8果）

※2 「花束状短果枝当たりの着果数」

右写真の着果数は3果（○で囲んだ果実）となる



（参考）さくらんぼの結果樹面積・収穫量の推移

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年(予想)
結果樹面積	2,840ha	2,830ha	2,800ha	2,790ha	2,770ha	2,710ha	2,650ha
収 穫 量	11,900t	13,000t	9,160t	12,400t	13,000t	8,590t	9,100～10,200t

以上